

「今」、わたしたちができること

被災地へ届けるく想い・人・物く



被災地へ向けて出発する「炊き出し隊」のメンバー

市では3月11日に発生した東日本大震災に対し、迅速な被災地支援を実施してきました。

今月号では、4月末現在の支援状況についてお知らせします。



「どうぞ、一杯」想いを込めて

石巻市で「たらふく鍋」を提供しました

4月18日の午後、養父市いずみ会の8人を含む「炊き出し隊」が宮城県石巻市へ向け出発しました。

市民のみなさんから提供いただいた食材を養父給食センターで下ごしらえして運びました。現地で水や資機材を運んだ先発隊と合流し、温かいご飯と養父市産の野菜や具がたっぷりに入った「たらふく鍋」600食を提供しました。

支え、寄り添う人を派遣しました

震災後、ただちに人的支援を開始し、地震当日の3月11日には緊急消防援助隊を福島県へ派遣し行方不明者の捜索活動等にあたりました。

また、給水支援や物資の分け・搬送支援、り災証明の発行にかかわる家屋調査の支援などのほか、被災者の健康相談やこころのケアにあたる保健師の派遣も行っています。(人的支援延べ約200人、4月末現在)



貼り出された情報を元に訪問調査へ

生活に必要な物やお金を届けました

市では、東日本大震災で被害を受けた方々を支援するために義援金や支援物資を募りました。その結果、たくさんの方の支援が集まり、4月1日には一部の物資を現地に搬送しました。

また、4月27日には、市区長会から寄託された義援金を含む約1300万円を兵庫県義援金募集委員会に送金しました。



勝地区長会長が広瀬市長に義援金を寄託しました



現地での支援物資の仕分け作業

お寄せいただいた義援金……………668万9,292円
 義父市区長会で集められた義援金……………626万3,489円
 (4月27日現在)
 持参いただいた支援物資 白米……………約3,300 粍
 タオル……………約11,000 枚
 石けん……………約8,500 個
 その他、燃料、食料、衛生用品、生活物資等多数

○その他

・被災者の方々への市営住宅等の提供について

支援の一環として、市営住宅等を被災者の方々へ提供しています。入居期間は、入居日より1年間です。住宅の状況、入居要件等については電話でお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

市役所都市計画課

(☎664-1981)

・被災企業の支援について

被災された企業及び関連企業に対して学校跡地の無償貸し出し等の支援を行い、一日も早い復興を支援します。

【お問い合わせ先】

市役所商工観光課

(☎664-0285)

・義援金について

引き続き募集しています。市役所本庁、各地域局・公民館・診療所・歯科診療所及び公立八鹿病院で受け付けています。

市長の願い

東日本を襲った大災害の現状がテレビ等で報道され、被災者の悲しみや窮状を目の当たりにして、誰もが居ても立ってもいられない気持ちになったことでしょう。市内でも、何か支援できることはないかという声が高まっています。本市では、そういう市民の声に応え、震災発生直後から、市民の皆様と協働で「被災地が必要とする」ことで、本市が可能なことはすぐに実施する」を基本に、出来るかぎりの支援を行ってきました。現地で灯油や食料、衣料などが不足していると聞けば、市民の協力を得て物資を集め、福島県郡山市と宮城県石巻市に送り届けました。また、石巻市で、また寒い避難所で多くの被災者が、温かい食べ物もなく、心安らぐことのない劣悪な環境の中で生活されていることを聞けば、市民から贈られた米や野菜などの食材を使って、たらふく鍋と温かいご飯の炊き出しを行いました。「被災後、温かい食事を摂るのは初めて」とずいぶんと喜んでいただきました。他にも、緊急消防援助隊や給水隊の派遣、保健師等職員の派遣も震災直後から行っています。

国難ともいえる大災害において復旧・復興は国・県等による組織的な支援活動が基本となりますが、今被災地で最も必要とされていることについて、押し付けて行くでも行うことも大切で、市民の皆様には被災地支援についてのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

養父市長 広瀬 栄